

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	玉野市児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な支援の提供	昨年度同様に訪問支援の実績はありませんが、お子様の成長段階を適切に捉えるため、アセスメントの強化を行っており、お子様の成長に合わせて環境構造や活動を変更していくこととしています。これに関しては、専門家からのコンサルテーションを受講することで、職員の経験や感覚だけではなく、一人ひとりの成長段階とエビデンスに基づいた支援の展開に繋がっていると考えます。	現状は、正規職員を中心に研修を受講しているが、研修の範囲を非常勤職員まで広げることで、職員全体が障がいの正しい理解と技術を持つことで、お子様の将来像の広がりにつながり、強いては虐待防止への取り組みに繋がるものと思われるため、今後も職員の学習機会には時間を費やしていきたいと考えています。また、一方的な見立てだけではなく、関係者から見た姿なども加味して、環境の違いによるお子様の変化もキャッチしていけるよう、関係機関との情報共有も強化していきます。
2	関係機関や保護者との連携	児童発達支援センターという中核的な役割を担っていることで、平素から地域の関係機関への発信や連携を図ることで、お子様、家族のニーズに応じた地域移行の実践や、インクルージョンの風土が広がるようマルシェを企画し、地域住民や他園児との接点を持てるよう努めています。また、地域からもセンターの役割を理解頂くための、施設開放を行い、構造化や視覚支援等の支援技術等、幼稚園、保育園の先生方にも療育に触れて頂く機会を設けています。	お子様の将来像が具体的に広がるよう、保護者とのコミュニケーション機会はまだ少ないと考えています。保護者の本当のニーズに応じていくには、平素からのコミュニケーションを積み上げ、お子様のごこと、家族のごことを理解し、お子様にとって、家族にとって必要な経験を提供していけるよう努めています。また、ご家族の育児観に寄り添っていくために、相談しやすい場を創ることも大切な役割として、継続して努めています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	業務改善	今期訪問支援が実施できなかった要因としては、児童発達支援センター全体における人員の定着不足によるものと考えています。	人員配置を見直すとともに、ICT等の活用において、業務の効率化を図っていきます。それによって生まれた時間をお子様、ご家族の支援に活かしていきます。また、中核的な役割として、情報発信や相談窓口としての機能強化に努めていきます。
2	保護者への説明等	家族支援においては、今年度法人内で委託を受けている要観察児教室のペアトレの機会を通し、市内在住の保護者への周知も広がっている。このことにより、親子関係の構築やお子様の成長に合わせた関わりなどを学ぶ機会となり、きょうだい児への支援についても、介入を行っていくことができれば、それぞれのライフステージにおける支援の広がりに繋がりを、障がいのある家庭の孤立感を無くしていければと考えています。	障がいのある家庭の孤立感を無くしていくため、今期の保護者対象とした勉強会を座談会という形式に変更し、まずは保護者同士がそれぞれ抱えている不安や疑問を共有する機会をもつこととした。それによって、同じ悩みであった事、自分だけではなかったことに気づき、前向きな発言が多かったことが成果として感じております。今後もこのような機会を通し、保護者間の繋がりを強化していくことが、今後のライフステージへの広がりや、お子様の強みを積み上げていく育児に繋がっていくよう保護者支援を行っていきます。